

の推移. 総合歯科医療を考えるセミナー, 広島, 2008年8月1-3日.

#### 【その他】

- 1) 魚島勝美: 日本補綴歯科学会教育問題委員会委員長・理事, 2007年4月1日~2009年3月31日.
- 2) 魚島勝美: 日本歯科医学教育学会機構検討委員会委員, 2007年4月1日~2010年3月31日.
- 3) 魚島勝美: 日本歯科医学教育学会教育国際化推進委員会委員, 2007年4月1日~2010年3月31日.
- 4) 田口裕哉: 歯冠修復における TEK の活用. 新潟大学医歯学総合病院歯科臨床研修医セミナー, 新潟, 2008年10月1日.

### 歯科矯正学分野

#### 【著書】

- 1) 齋藤 功: 他科との協同による治療, II. 顎変形症の矯正治療. 歯科矯正学 第5版(相馬邦道, 後藤滋巳, 葛西一貴, 山本照子, 飯田順一郎 編); 318-325頁, 医歯薬出版, 東京, 2008.
- 2) 齋藤 功: 留学生大学院教育とアジアへの貢献—新潟大学医歯学総合研究科・口腔生命科学専攻の取り組み—. 臨床家のための矯正 YEAR BOOK'08(伊藤学而, 中島榮一朗, 山本照子, 清水典佳, 大塚裕純 編), 125-130頁, クインテッセンス出版, 東京, 2008.
- 3) 朝日藤寿一: 胎生期における顔の形成について. 矯正臨床の基礎(与五沢文夫 監修, 与五沢矯正研究会 編著), 67-73頁, クインテッセンス出版, 東京, 2008.
- 4) 森田修一: 成長に関する法則. 矯正臨床の基礎(与五沢文夫 監修, 与五沢矯正研究会 編著), 58-62頁, クインテッセンス出版, 東京, 2008.
- 5) 廣島邦泰, 森田修一: 歯の移動の組織像, 1. 歯周組織の構造. 矯正臨床の基礎(与五沢文夫 監修, 与五沢矯正研究会 編著), 67-73頁, クインテッセンス出版, 東京, 2008.
- 6) 廣島邦泰, 森田修一: 歯の移動の組織像, 2. 矯正力による組織反応. 矯正臨床の基礎(与五沢文夫 監修, 与五沢矯正研究会 編著), 112-113頁, クインテッセンス出版, 東京, 2008.
- 7) 廣島邦泰, 森田修一: 歯の移動の組織像, 3. 神経系. 矯正臨床の基礎(与五沢文夫 監修, 与五沢矯正研究会 編著), 114-115頁, クインテッセンス出版, 東京, 2008.
- 8) 田中勝寛, 森田修一: 歯の移動の組織像, 4. 脈管系(歯根膜・歯髄). 矯正臨床の基礎(与五沢文夫 監修, 与五沢矯正研究会 編著), 116-117頁, クインテッセンス出版, 東京, 2008.
- 9) 北園俊司, 澤田美穂, 竹山雅規: 歯周疾患と歯の移動. 矯正臨床の基礎(与五沢文夫 監修, 与五沢矯正研究会 編著), 131-133頁, クインテッセンス出版, 東京, 2008.
- 10) 山田秀樹, 竹山雅規: 診断に必要な審査・検査. 矯正臨床の基礎(与五沢文夫 監修, 与五沢矯正研究会 編著), 213-221頁, クインテッセンス出版, 東京, 2008.

#### 【論文】

- 1) Gary A. Estomaguio, Kazuhiro Yamada, Isao Saito: Unilateral condylar bone change, inclination of the posterior slope of the articular eminence and craniofacial morphology. *Orthodontic Waves* 67(3): 113-119, 2008.
- 2) Talat Al-Gunaid, Toshikazu Asahito, Masaki Yamaki, Kooji Hanada, Ritsuo Takagi, Kazuhiro Ono, Isao Saito: Relapse Tendency in the Maxillary Dental Arch Widths in Unilateral Cleft Lip and Palate Patients with Different Types of Maxillary Arch Form. *Cleft Palate Craniofacial J* 45(3): 278-283, 2008.
- 3) Talat Al-Gunaid, Kazuhiro Yamada, Ritsuo Takagi, Chikara Saito, Isao Saito: Postoperative stability of bimaxillary surgery in Class III patients with mandibular protrusion and mandibular deviation: A frontal cephalometric study. *International Journal of Oral & Maxillofacial Surgery* 37(11): 992-998, 2008.
- 4) Ejiri S, Tanaka M, Watanabe N, Anwar RB, Yamashita E, Yamada K, Ikegame M: Estrogen deficiency and its effect on the jaw bones. *J Bone Miner Metab* 26(5): 409-415, 2008
- 5) 古里美幸, 森田修一, 朝日藤寿一, 小野和宏, 高木律男, 齋藤 力, 齋藤 功: 片側性唇顎口蓋裂患者の成長発育に伴う外鼻形態変化について. *日口蓋誌* 33(1): 42-56頁, 2008.
- 6) 中川麻里, 森田修一, 八巻正樹, 齋藤 功: 矯正患者にみられた歯数異常について—1993年から2006年までの臨床統計調査—. *甲北信越矯歯誌* 16(1): 40-43頁, 2008.

- 7) 小野和宏, 八木 稔, 大内章嗣, 魚島勝美, 安島久雄, 林 孝文, 齋藤 功, 興地隆史, 前田健康:生涯学習能力に対するPBLチュートリアルの効果. 日歯教誌 24(2): 145-149 頁, 2008.
- 8) 永井正紀, 小林正治, 長谷部大地, 加納浩之, 五島秀樹, 齋藤 功, 齊藤 力:下顎前突症患者に対する上下顎移動術後の顎骨安定性について—骨接合にチタンミニプレートを使用した群と吸収性 PLLA プレートを用いた群の比較—. 日顎変形誌 18(3): 214-220 頁, 2008.
- 9) 寺田員人, 吉田 満, 佐野奈都貴, 金山 潔, 齋藤 功:顎変形症患者の外科的矯正治療による心理状態の変化. 甲北信越矯歯誌 16(1): 18-22 頁, 2008.

#### 【研究費獲得】

- 1) 原田史子:水分子を指標にした歯の移動に伴う神経—グリア相互作用. 平成 20 年度(継続)日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究 (B), 19791571, 2008.
- 2) 原田史子:歯の移動時における神経—グリア相互作用の検索, 平成 20 年度新潟大学プロジェクト推進経費(奨励研究), 2008.
- 3) 齋藤 功, 渡邊直子:咀嚼—機械的応力—に対する骨リモデリングのシミュレーションから下顎偏位を解明する. 平成 21 年度(継続)日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (C), 19592348, 2008.

#### 【講演, シンポジウム】

- 1) 齋藤 功:第 23 回甲北信越矯正歯科学会大会・シンポジウム『大学における矯正臨床の現況』での発表,「新潟大学における矯正治療のコンセプトと現況」. 第 23 回甲北信越矯正歯科学会大会, 塩尻, 2008 年 6 月 8 日, 第 23 回甲北信越矯正歯科学会大会(抄録集:26 頁), 2008.
- 2) 齋藤 功:第 18 回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会シンポジウム 1「開咬患者の形態と機能回復—その治療目標—」,「開咬患者の形態と機能回復—その治療目標—」. 第 18 回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会, 名古屋, 2008 年 6 月 17 日, 日顎変形誌 18 (2): 68-69 頁, 2008.
- 3) 八巻正樹:サテライトセミナー 1「顎変形症の評価基準を求めて」顎矯正手術のボーダーラインを求めて. 第 67 回日本矯正歯科学会大会, 千葉市, 2008 年 9 月 16 日 -18 日, 第 67 回日本矯正歯科学会大会(抄録集:94 頁), 2008.
- 4) 齋藤 功:成人矯正治療および加齢と歯の移動. 愛知学院大学歯学会特別講演(学生のための講演会), 名古屋市, 2008 年 10 月 18 日.
- 5) Isao Saito: Adult orthodontic treatment provided in cooperation with periodontists and/or prosthodontists. KAO-JOS Joint Symposium at the 41st Annual Scientific Congress, Korean Association of Orthodontists and the 2nd Joint meeting of KAO and JOS, Seoul, 2008.11.7, Abstract book for KAO-JOS Joint Symposium at the 41st Annual Scientific Congress, Korean Association of Orthodontists and the 2nd Joint meeting of KAO and JOS: 71,2008.
- 6) 碓井由紀子, 小野和宏, 朝日藤寿一, 幸地省子, 高木律男, 齋藤 功, 八木 稔:日本口蓋裂学会優秀論文賞受賞講演:二次的顎裂部骨移植の時期の違いが顎顔面の成長発育におよぼす影響について. 第 32 回日本口蓋裂学会総会・集会, 広島, 2008 年 5 月 28 日 -29 日, 日本口蓋裂学会雑誌 33 (2): 31 頁, 2008

#### 【学会発表】

- 1) Y. Watanabe, T. Mohri, M. Takeyama, M. Yamaki, I. Saito: Long-term observation of autotransplanted teeth with complete root formation in orthodontic patients. KAO-JOS Joint Symposium at the 41st Annual Scientific Congress, Korean Association of Orthodontists and the 2nd Joint meeting of KAO and JOS, Seoul, 2008.11.7, Abstract book for KAO-JOS Joint Symposium at the 41st Annual Scientific Congress, Korean Association of Orthodontists and the 2nd Joint meeting of KAO and JOS: 189, 2008.
- 2) M. Takeyama, K. Ono, J. Nihara, R. Takagi, I. Saito: A case report of unilateral cleft lip and palate combined with surgical assisted rapid palatal expansion. KAO-JOS Joint Symposium at the 41st Annual Scientific Congress, Korean Association of Orthodontists and the 2nd Joint meeting of KAO and JOS, Seoul, 2008.11.7, Abstract book for KAO-JOS Joint Symposium at the 41st Annual Scientific Congress, Korean Association of Orthodontists and the 2nd Joint meeting of KAO and JOS: 211, 2008.

- 3) F. Harada, I. Saito: A mandibular protrusion case treated in late mixed and permanent dentition. KAO-JOS Joint Symposium at the 41st Annual Scientific Congress, Korean Association of Orthodontists and the 2nd Joint meeting of KAO and JOS, Seoul, 2008.11.7, Abstract book for KAO-JOS Joint Symposium at the 41st Annual Scientific Congress, Korean Association of Orthodontists and the 2nd Joint meeting of KAO and JOS: 218, 2008.
- 4) M OISHI, F HARADA, S WAKISAKA, T MAEDA: Involvement of GDNF in the periodontal Ruffini endings during regeneration. the Society for Neuroscience's 38th annual meeting, WASHINGTON, DC, 2008.11.16, FINAL PROGRAM <http://www.sfn.org/am>: 123, 2008.
- 5) Anwar RB, Tanaka M, Yamashita E, Watanabe N, Ali MN, Ohshima H, Ejiri S: Relationship between estrogen deficiency-induced oral bone loss and systemic osteoporosis. The 38th international Sun Valley workshop on skeletal tissue biology, Sun Valley, Idaho, USA, 2008. 8. 3-6, Abstract book for The 38th international Sun Valley workshop on skeletal tissue biology: 26, 2008.
- 6) 朝日藤寿一, 佐藤嘉晃, 幸地省子, 倉田和之, 鐘ヶ江晴秀, 真野樹子, 須佐美隆史, 坂本輝雄, 倉林仁美, 石渡靖夫, 岩田敏男, 平野吉子, 鈴木 陽, 齋藤 功: 口唇口蓋裂症例の歯科矯正治療に関する多施設共同研究—歯科矯正治療の実態調査結果について—. 第32回日本口蓋裂学会総会・集会, 広島市, 2008年5月28日-29日, 日口蓋誌 33 (2): 183 頁, 2008.
- 7) 宮城尚史, 山田秀樹, 布田花子, 永田昌毅, 高木律男, 齋藤 功: 上顎左側側切歯の先天欠如および上顎切歯部の形態異常を伴う両側唇顎口蓋裂の一治験例. 第32回日本口蓋裂学会総会・集会, 広島市, 2008年5月28日-29日, 日口蓋誌 33 (2): 206 頁, 2008.
- 8) 古里美幸, 森田修一, 朝日藤寿一, 小野和宏, 高木律男, 齋藤 力, 齋藤 功: 片側性唇顎口蓋裂患者の成長発育に伴う外鼻形態の変化. 第32回日本口蓋裂学会総会・集会, 広島市, 2008年5月28日-29日, 日口蓋誌 33 (2): 234 頁, 2008.
- 9) 竹山雅規, 小野和宏, 高木律男, 齋藤 功: 骨延長術による上顎歯列弓の拡大を併用して矯正治療を行った片側性唇顎口蓋裂の一例. 第32回日本口蓋裂学会総会・集会, 広島市, 2008年5月28日-29日, 日口蓋誌 33 (2): 242 頁, 2008.
- 10) 飯田明彦, 小山貴寛, 高木律夫, 芳澤享子, 齋藤 力, 齋藤 功, 小野和宏: 口唇口蓋裂手術における培養複合粘膜の応用. 第32回日本口蓋裂学会総会・集会, 広島市, 2008年5月28日-29日, 日口蓋誌 33 (2): 157 頁, 2008.
- 11) 福井忠雄, 依岡正宏, 越知佳奈子, 竹山雅規, 八巻正樹, 齋藤 功: 矯正保険治療における診療録記載視線システムの開発. 第23回甲北信越矯正歯科学会大会, 塩尻市, 2008年6月8日, 甲北信越矯歯誌 16 (1): 46 頁, 2008.
- 12) 渡邊洋平, 毛利 環, 竹山雅規, 八巻正樹, 興地隆史, 齋藤 力, 齋藤 功: 矯正治療患者における歯根完成歯自家移植の長期臨床的術後調査. 第23回甲北信越矯正歯科学会大会, 塩尻市, 2008年6月8日, 甲北信越矯歯誌 16 (1): 44 頁, 2008.
- 13) 石井一裕, 山崎幸一, 古里美幸, 金山 潔, 渡邊直子, 森田修一, 齋藤 功: 抜歯症例の長期安定性について. 第23回甲北信越矯正歯科学会大会, 塩尻市, 2008年6月8日, 甲北信越矯歯誌 16 (1): 45 頁, 2008.
- 14) 渡邊直子: 前思春期性歯周炎に罹患した若年者の過蓋咬合症例. 第23回甲北信越矯正歯科学会大会, 塩尻市, 2008年6月8日, 甲北信越矯歯誌 16 (1): 50 頁, 2008.
- 15) 越知佳奈子: 上顎犬歯の埋伏と下顎側切歯の先天欠如を伴う片側性唇顎口蓋裂症例. 第23回甲北信越矯正歯科学会大会, 塩尻市, 2008年6月8日, 甲北信越矯歯誌 16 (1): 54 頁, 2008.
- 16) 竹山雅規: 叢生を伴うアングルⅡ級Ⅰ類抜歯症例. 第23回甲北信越矯正歯科学会大会, 塩尻市, 2008年6月8日, 甲北信越矯歯誌 16 (1): 54 頁, 2008.
- 17) 中村順一: 下顎左側偏位を伴う上下顎前突症例. 第23回甲北信越矯正歯科学会大会, 塩尻市, 2008年6月8日, 甲北信越矯歯誌 16 (1): 51 頁, 2008.
- 18) 原田史子: 混合歯列期後期のⅠ期治療とⅡ期治療を行った下顎前突抜歯症例. 第23回甲北信越矯正歯科学会大会, 塩尻市, 2008年6月8日, 甲北信越矯歯誌 16 (1): 48 頁, 2008.
- 19) 宮城尚史: 空隙を伴う上下顎前突症例. 第23回甲北信越矯正歯科学会大会, 塩尻市, 2008年6月8日, 甲北信越矯歯誌 16 (1): 53 頁, 2008.

- 20) 鳥巢隆弘：叢生を伴う過蓋咬合症例. 第23回甲北信越矯正歯科学会大会, 塩尻市, 2008年6月8日, 甲北信越矯正歯誌16(1):55頁, 2008.
- 21) 福嶋牧子：下顎左側第二小白歯の埋伏を伴う過蓋咬合症例. 第23回甲北信越矯正歯科学会大会, 塩尻市, 2008年6月8日, 甲北信越矯正歯誌16(1):52頁, 2008.
- 22) 朝日藤寿一, 本間克彦, Surgically-assisted rapid palatal expansion (SARPE)により上顎の拡大を行った片側性唇顎口蓋裂の一例. 第23回甲北信越矯正歯科学会大会, 塩尻市, 2008年6月8日, 甲北信越矯正歯誌16(1):47頁, 2008.
- 23) 三瀬 泰, 森田修一, 八巻正樹, 齋藤 力, 高木律男, 齋藤 功：重度の上顎前突における治療前後の硬, 軟組織側貌変化—外科的矯正治療と矯正単独治療との比較—. 第18回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会, 名古屋市, 2008年6月17日-18日, 日顎変形誌, 18(2):155頁, 2008.
- 24) 丹原 惇, 竹山雅規, 小林正治, 福田純一, 齋藤 力, 高木律男, 齋藤 功：上下顎移動術施行症例における咬合状態の検討. 第18回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会, 名古屋市, 2008年6月17日-18日, 日顎変形誌, 18(2):176頁, 2008.
- 25) 相川 弦, 小林正治, 高田佳之, 齋藤 功, 林 孝文, 齋藤 力：顎変形症患者の顎関節症状と骨格形態との関連について. 第18回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会, 名古屋市, 2008年6月17日-18日, 日顎変形誌, 18(2):115頁, 2008.
- 26) 福田純一, 児玉泰光, 飯田明彦, 高木律男, 福井忠雄, 齋藤 功：前歯部歯槽部骨切り術の軟組織変化について. 第18回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会, 名古屋市, 2008年6月17日-18日, 日顎変形誌, 18(2):133頁, 2008.
- 27) 渡邊直子, 八巻正樹, 小野和宏, 前田健康, 齋藤 功：歯科矯正学実習における視覚教材の開発. 第27回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 東京, 2008年7月11日-12日, 第27回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集:96頁, 2008.
- 28) 金山 潔, 渡邊直子, 竹山雅規, 中村順一, 八巻正樹, 森田修一, 赤澤宏平, 寺田員人, 齋藤 功：矯正治療終了後における咬合状態の長期的変化. 平成20年度新潟歯学会第1回例会, 新潟市, 2008年7月19日, 新潟歯学会雑誌38(2):75頁, 2008.
- 29) 櫻井直樹, 荒井良明, 高木律男, 安島久雄, 林 孝文, 西山秀昌, 佐藤一夫, 高田佳之, 福井忠雄, 細貝暁子, 宮島 久, 岡崎敦子：関節雑音記録を利用した顎関節症遠隔診断法の開発. 第21回日本顎関節学会大会, 大阪市, 2008年7月26日-27日, 第21回日本顎関節学会大会プログラム・抄録集:103頁, 2008.
- 30) 福井忠雄, 齋藤 功：上顎大臼歯の遠心移動を行ったClass II div. 2症例. 第67回日本矯正歯科学会大会, 千葉市, 2008年9月16日-18日, 第67回日本矯正歯科学会大会(抄録集:253頁), 2008.
- 31) 渡邊直子, 八巻正樹, 齋藤 功：歯科矯正学学生実習用に開発した施策素材の紹介. 第67回日本矯正歯科学会大会, 千葉市, 2008年9月16日-18日, 第67回日本矯正歯科学会大会(抄録集:189頁), 2008.
- 32) 朝日藤寿一, 本間克彦, 小野和宏, 齋藤 功：Surgically-assisted rapid palatal expansion (SARPE)により上顎の拡大を行った片側性唇顎口蓋裂の一例. 第67回日本矯正歯科学会大会, 千葉市, 2008年9月16日-18日, 第67回日本矯正歯科学会大会(抄録集:244頁), 2008.
- 33) 大石めぐみ, 原田史子, 前田健康, 齋藤 功：歯根膜ルフィニ神経終末の再生過程におけるGDNFの関与. 第67回日本矯正歯科学会大会, 千葉市, 2008年9月16日-18日, 第67回日本矯正歯科学会大会(抄録集:161頁), 2008.
- 34) 小原彰浩, 寺田員人, 松原大樹, 越知佳奈子, 谷尻豊寿, 齋藤 功：顔軟組織と歯列模型の三次元データを応用した口腔周囲軟組織の三次元変化. 第67回日本矯正歯科学会大会, 千葉市, 2008年9月16日-18日, 第67回日本矯正歯科学会大会(抄録集:213頁), 2008.
- 35) 三瀬 泰, 森田修一, 八巻正樹, 齋藤 力, 高木律男, 齋藤 功：外科的矯正治療あるいは矯正単独治療により改善を図った重度上顎前突における硬, 軟組織側貌変化の比較. 第67回日本矯正歯科学会大会, 千葉市, 2008年9月16日-18日, 第67回日本矯正歯科学会大会(抄録集:255頁), 2008.
- 36) 大石めぐみ, 原田史子, 前田健康, 齋藤 功：歯根膜ルフィニ神経の再生過程におけるGDNFの関与. 平成20年度新潟歯学会第2回例会, 新潟市, 2008年11月8日, 新潟歯学会雑誌38(2):79頁, 2008.
- 37) 小原彰浩, 寺田員人, 松原大樹, 越知佳奈子, 谷尻豊寿, 齋藤 功：下顎後方移動術前後における口腔周囲顔面軟組織形態の三次元的変化. 平成20年度新潟歯学会第2回例会, 新潟市, 2008年11月8日, 新潟歯学会雑誌

38 (2) : 84 頁, 2008.

- 38) 相川 弦, 小林正治, 高田佳之, 齋藤 功, 林 孝文, 齊藤 力: 顎関節の異常と顎変形は関連する. 第 21 回日本歯科医学学会総会, 横浜市, 2008 年 11 月 14 日 -16 日, 第 21 回日本歯科医学学会総会・抄録集: 113 頁, 2008.

#### 【研究会発表】

- 1) 朝日藤寿一: 新潟大学における治療体系について. 第 6 回日本における口唇裂・口蓋裂治療に関する多施設共同研究を考える会, 東京, 2009 年 1 月 15 日, 2009.

#### 【受賞】

- 1) 大石めぐみ, 原田史子, 前田健康, 齋藤 功: 歯根膜ルフィニ神経終末の再生過程における GDNF の関与. 第 67 回日本矯正歯科学会大会 優秀発表賞, 千葉市, 2008 年 9 月 16 日 -18 日.  
2) 碓井由紀子, 小野和宏, 朝日藤寿一, 幸地省子, 高木律男, 齋藤 功, 八木 稔: 二次的顎裂部骨移植の時期の違いが顎顔面の成長発育におよぼす影響について. 第 32 回日本口蓋裂学会総会・集会 日本口蓋裂学会優秀論文賞, 広島, 2008 年 5 月 28 日 -29 日.

#### 【その他】

- 1) Anwar RB, Tanaka M, Yamashita E, Watanabe N, Ali MN, Ohshima H, Ejiri S: Relationship between estrogen deficiency-induced oral bone loss and systemic osteoporosis. J Musculoskelet Neuronal Interact 8 (4): 352, 2008.  
2) 齋藤 功: 平成 20 年度・特色 GP 講演会報告, 「平成 20 年度・特色ある大学教育支援プログラム報告書」: 27-43 頁, 2009.  
3) 齋藤 功: 教職員のスキルアップのための大学院 FD, 「平成 20 年度・大学院教育改革支援プログラム・プロジェクト所属による大学院教育の実質化」: 51- 63, 2009.  
4) 越知佳奈子, 山添清文, 森田修一, 齋藤 功: 最近のトピックス: 歯列模型の三次元解析システムの開発. 新潟歯学会雑誌 38 (1): 23-24 頁, 2008.  
5) 齋藤 功: 愛媛大学で開催された大学院教育 FDWS への参加報告「平成 20 年度・大学院教育改革支援プログラム・プロジェクト所属による大学院教育の実質化」: 65- 114, 2009.  
6) 八巻正樹: 特色 GP 新潟大学歯学部ビデオライブラリー Vol.10 歯科矯正学基礎実習, 2007.  
7) 渡邊直子: 特色 GP 新潟大学歯学部ビデオライブラリー Vol.11 歯科矯正学トレース実習, 2007.  
8) 渡邊直子: 大学院 GP 新潟大学歯学部大学院ビデオライブラリー Vol.8 矯正歯科臨床ライブラリー 「口腔内写真撮影法」, 2008.  
9) 竹山雅規: 下突咬合の治り方, 治し方—55 症例を顧みて—第 2 報下顎前歯の位置変化とジンフィージスの厚さについて. Monograph of Clinical Orthodontics 29 : 13-16 頁, 2007.  
10) 中村順一: 下突咬合の治り方, 治し方—55 症例を顧みて—第 3 報成長のない症例における側貌変化について. Monograph of Clinical Orthodontics 29 : 17-21 頁, 2007.  
11) 澤田美穂, 八巻正樹, 森田修一: 下突咬合の治り方, 治し方—55 症例を顧みて— 第 1 報 下顎が回転した症例と回転しなかった症例の比較検討. Monograph of Clinical Orthodontics 29 : 1-12 頁, 2007.  
12) 鳥巢隆弘: 叢生を伴う過蓋咬合症例. 松本歯科大学歯学部歯科矯正学講座臨床セミナー, 塩尻市, 2008 年 4 月 16 日.  
13) 原田史子, 混合歯列期後期の I 期治療と II 期治療を行った下顎前突抜歯症例. 甲北信越 3 大学交流セミナー, 塩尻市, 2008 年 6 月 7 日.  
14) 竹山雅規: 叢生を伴うアングル II 級 1 類抜歯症例. 甲北信越 3 大学交流セミナー, 塩尻市, 2008 年 6 月 7 日.

### 小児歯科学分野

#### 【論文】

- 1) Numa N, Ishida Y, Nasu M, Sohda M, Misumi Y, Noda T, Oda K: Molecular basis of a perinatal